

事業計画書

1 事業名称	世田谷エシカル消費・フェアトレード推進プロジェクト
2 協働事業の内容及び実施方法	<p>(1)事業の目的</p> <p>2022 年 4 月に改正・施行された「世田谷区地域経済の持続可能な発展条例」第 3 条 1 項 (4) 及び第 7 条 3 項に、地域経済の持続可能な発展に関する基本方針として「持続可能性を考慮した事業活動及びエシカル消費（人、社会及び環境に配慮した消費行動をいう。）の推進を図ること」と記載されており、区、事業者、区民及び関係機関にはエシカル消費への取り組みが促されている。当団体は、区内におけるフェアトレードを中心としたエシカル消費の推進を目的に区民や教育機関、関係団体により 2019 年に設立された。2022 年度の協働事業では、所管課の協力により、教育機関などに幅広くエシカル消費の重要性を伝えることができた。本年度も継続して取り組むことで、さらに広い範囲の区民や関係機関にエシカル消費の知識や意義を伝え、区民が持続可能なモノを買える機会を増やすとともに、区内事業者にとっても事業機会の拡大につながることを、地域の商店街を守ろうとする思いやり消費と、生産国の人々の暮らしを守ろうとするフェアトレードの理念が同じであることなどを伝え、フェアトレードをはじめとするエシカルな商品の流通を増やし、世田谷区の持続可能なまちづくりの一助とすることを目的とする。</p> <p>区内で流通する商品をつくる生産国で、不公平不公正な商取引のために人々の暮らしが疲弊したり、環境破壊されていることが問題となっている。これが続く限り、真の意味での世田谷経済の持続可能性がなくなっているとは言えない。世田谷が賑わい、持続可能な発展をしていくためには、そこにつながる世界の国々の持続可能性が不可欠であり、その一助となるのがフェアトレードである。</p> <p>また、世田谷は、消費者である区民と産業は、中小事業者や商店街、個店や点在する農業を中心に構成されており、社会情勢や地球環境の観点から、これまでの市場主義では、地域の持続性や活性化の実現が難しいため、持続可能なまちづくりのために必要なのは、世田谷のお店、世田谷の農業を守ろうとする思いやりと、連携した消費行動である。これは、途上国の人々の暮らしや環境を守ろうとするフェアトレードの思いやりの理念とも共通し、フェアトレードを大切に人は、地域のお店を守るためには地域での意識的な消費が大切であることを理解している。地域のお店を守ろうとする人にも、途上国の人々を支える思いやり根差した意識的な消費行動、フェアトレードを知ってもらい、世田谷、世界双方の持続可能な社会づくりを推進したい。</p>

<p>(2) 事業の内容</p> <p>* 実施体制や実施手法を含めて記入すること。</p>	<p>1) 世田谷おいしいもの巡り (2019年より本団体独自の事業として継続中、2022年度協働事業選定)</p> <p>実施期間：シールラリー5月13日(土)-6月11日(日)、抽選6月18日(日)(予定)</p> <p>概要：区内飲食店に、対象期間フェアトレードの材料を使ったメニューを提供してもらい、参加店舗を巡るシールラリーを行う。材料は各店舗が各自用意。利用1店舗につき1口として応募者から抽選を行い、5名にフェアトレードギフトセットを贈呈。区民に楽しくフェアトレードに触れてもらうと同時に、飲食店もフェアトレードの知識が深められる企画となっている。</p> <p>2) 世田谷フェアトレードチョコパッケージデザインコンテスト</p> <p>実施期間：7月-2月ごろ</p> <p>概要：フェアトレードのミニチョコの包装・パッケージのイラストを、総合的な学習におけるSDGsの学習や消費生活課による消費者教育の副教材の配布に合わせた学年の小学生(5-6年生)を中心に募集してコンテストを行う。チラシ配布は区立小学5-6年生全員、商店街など。全学年から応募可能とする。応募する過程でフェアトレードやカカオ豆にまつわる問題(児童労働、労働搾取など)を考える機会となる。募集要項に応募ハガキ(後納郵便)を一体化し制作。FTTSによる1次審査、「世田谷産業フェスタ」で1次審査通過作品を展示して来場者の意見も伺う取り組みを行い、外部審査員による最終審査で5名入選。入選者のイラストをパッケージにして販売する。パッケージにはガバスパルプを使った持続可能な製品を使用。区内5地域各1作品の選定を目安にし、将来的には各地域の名物となることを目標とする。商店街にも説明して回り、募集ポスターの掲示とチラシの配布を依頼するなど、連携を図る。封入作業は福祉作業所喜多見夢工房に依頼。HPや適宜開催するオンライン交流会でイベントの進捗を報告する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入賞5作品、各5個入り96パック作成 (チョコレート2400個) ・販売利益は経費を引いて寄付予定(寄付先は事業終了時の社会情勢を鑑みて決定)。 ・審査員(依頼予定) 末吉里花氏(一般社団法人エシカル協会代表理事)、本城晴美(イラストレーター)、栗山和久(世田谷区商店街振興組合連合会青年部長)ほか ・販売店 おいしいもの巡りの関係店舗に声かけ、エシカルギフトマルシェ、イベント ・スケジュール(詳細はp22参照) <p><コンテスト></p> <p>6月告知内容決定→チラシデザイン</p> <p>7月中旬、チラシ配布、コンテスト告知</p> <p>9月末応募締切</p> <p>10月中旬 1次審査</p> <p>10月末日 最終審査締切</p> <p><生産></p> <p>8-9月ベースデザイン決定</p> <p>10月チョコ入荷</p> <p>11月上旬イラストはめ込み、印刷</p> <p>11月下旬-12月封入、</p> <p>1月中旬~2月 販売</p>
<p>(3) 令和5年度事業完了予定日</p>	<p>2024年2月29日</p>

3 協働の必要性及び役割分担	(1) 区の担当課	経済産業部 消費生活課、商業課、産業連携交流推進課	
	(2) 協働する意義・必要性	<p>おいしいもの巡り：2022年度の協働事業実施で区と連携していることを広く知らせることができたため、区の持つネットワークや、協働事業としての予算を活用して広報することにより、より広い層にフェアトレードをはじめとするエシカル消費を伝えることができる。また、商店街に本プロジェクトを紹介することにより、フェアトレード・エシカル消費の必要性を効果的に伝えられ、次年度の参加店舗を増やしたり、商店街単位での参加が期待できる。</p> <p>世田谷フェアトレードチョコパッケージデザインコンテスト（以下、FT チョココンテスト）では、区を通して商店街、福祉機関、教育機関などに働きかけをすることで参加者を増やすことができると考える。世田谷産業フェスタでの区民投票も、区との事前調整を十分に行い広く周知をすることなどによりスムーズに行えると考えられる。また将来的には、世田谷みやげとして展開することを考えており、区の持続可能な経済活動への取り組みの象徴にもなると考える。</p>	
	(3) 役割分担	提案団体	<p>おいしいもの巡り：既存参加店舗への働きかけ、商店街に対するエシカル消費の啓発、消費者（区民）への広報、進行管理、参加店舗や利用素材に関する情報の発信など</p> <p>FT チョココンテスト：フェアトレードチョコレートに関する情報発信、コンテストの企画・進行</p>
		区担当課	<p>おいしいもの巡り：商店街に対する本企画の紹介、商店街からの意見などの集約、広報支援</p> <p>FT チョココンテスト：教育機関、福祉機関などと FTTS をつなぐ仲介、教育機関への応募要領配布、福祉機関との連携など</p>
	(4) 地域の団体との連携	<p>事業全体：エシカル消費への興味がある区民や事業者、大学など研究機関、地域商店街商店街への企画紹介→エシカル消費への興味喚起、次年度以降の参加店増加</p> <p>FT チョココンテスト：商店街、教育機関、福祉機関との連携</p>	
4 協働の成果・効果	(1) 期待される具体的な成果や区民・地域への波及効果及びその測定方法	<p>おいしいもの巡り</p> <p>（区民）飲食店の利用を通してエシカル消費、フェアトレードに触れ、シールラリーに参加することで各店舗で使われている食材に関する社会的な課題について知り、理解を深められる。</p> <p>（事業者）フェアトレードの食材に触れ、その背景を知ること、飲食店としてのエシカル消費との関わりについて考える機会となる。また、エシカルコンシューマー（倫理的な消費者）と呼ばれる新たな消費者層を顧客として獲得することで、事業のさらなる成長にもつながる。</p> <p><測定方法></p> <p>シールラリー参加者数、応募シートでのアンケート集計、参加店舗へのアンケート（エシカル消費、フェアトレードへの理解の深まり）、参加店舗数の変化</p> <p>FT チョココンテスト</p> <p>（区民）コンテスト応募用紙にエシカル消費やフェアトレードに関する情報を掲載することで、参加者に対してフェアトレードに対する理解を深められる。また、商品購入を</p>	

		<p>通してコンテスト参加者の関係者（商店街、親族）にもエシカル消費やフェアトレードの理解が深まる。また、パッケージにバナナペーパーや竹紙など持続可能なものを使用することで、消費生活のさまざまな場所にエシカルな商材が取り入れられることを消費者、事業者へ伝えられる。</p> <p><測定方法>応募者数・属性、応募者へのアンケート、チョコ購入者数</p>
		<p>(区担当課)</p> <p>おいしいもの巡り</p> <p>エシカル消費の効果的な推進には、事業者と消費者双方に啓発を行うことが必要であり、本イベントは、飲食店（事業者）、区民（消費者）双方への高い普及・啓発効果が期待でき、協働事業による実施2年目となることから、飲食店、区民の認知度も高まり、参加者も増えることが予想される。</p> <p>FTチョココンテスト</p> <p>エシカル消費を日常のものにするためには子どもの頃から慣れ親しむことが大切であり、小学生を対象としたコンテストの実施は非常に効果的で、また、小学生の家族等への普及・啓発にも繋がるため、大きな成果が期待できる。</p>
<p>5 その他</p> <p>* 提案する事業と関連する団体の特徴、専門性、実績、提案、事業実施に向けたアピールなど</p>	<p>(2)事業の成果の活用方法、将来の展開</p>	<p>(団 体)</p> <p>区民の間でフェアトレードをはじめとするエシカルな商品の大切さの理解が進み、市場への要望が増えることで、より多くの事業者によるエシカル商材の取り扱いが盛んになる。世田谷の消費活動がエシカルになることで、それを取り扱う産業にも持続可能性が進められ、子どもたちが育ちゆく世田谷のまちがさらに人と地球にやさしく、フェアネス（公正・公平）を大切にしたいまちとなる。</p> <p>フェアトレードは、児童労働、環境問題、貧困問題、ジェンダー、災害支援、障害者福祉といったエシカル消費の多くの要素を含んでおり、事業者にとって取り組みやすいエシカル商材である。事業者がフェアトレードの取り扱いをきっかけにして、脱プラ、ゴミ削減、食品ロス、地産地消、福祉、被災地支援など、エシカル消費には様々な可能性があることを知ることで、「消費」を中心に、エシカルなまち、持続可能性への理解が高いまち、世田谷として地域の振興にもつながると考えられる。</p> <p>(区担当課)</p> <p>エシカルな商品の需要と取り扱いが増えることは、地域経済の持続可能な発展に寄与する一方、本事業によるイベントを恒例行事として定着させ、さらに世田谷みやげに展開させる等、区民に身近な取り組みを行うことにより、エシカル消費推進の機運が醸成され、持続可能な社会の実現に向けて大きな前進となることが考えられる。</p> <p>フェアトレードタウン世田谷推進委員会は、フェアトレードをはじめとしたエシカル消費の大切さを思う区民、教育機関、NPO、フェアトレード団体などにより2019年に設立、これまでオフライン・オンラインの勉強会、エシカルマルシェへの協力、大学等のフェアトレードイベントへの登壇や研究への協力などを通して、地域でのエシカル消費の啓発をボランティアとして行ってきた。エシカル消費は、子どもたちが育ちゆく未来の地球環境を守る大きな力と捉えて活動している。</p> <p>区内のオーガニックコットンブランドの老舗メイド・イン・アースや、国内のフェアトレードブランドの第一人者であるピープル・ツリーといったエシカル企業もメンバー。明治大学、昭和女子大学、日本大学などのフェアトレード関連ゼミやサークルの学生もメンバーとなって活動しており、大学間の連携も行なわれている。</p>

[令和5年度提案型協働事業 様式]

※昨年度に提案型協働事業を実施した団体は、次のページもご記入ください。

※昨年度に提案型協働事業を実施した団体のみご記入ください。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">6 昨年度の世田谷区提案型協働事業の効果など</p>	<p>(1) 昨年度の協働事業の効果・実績</p>	<p>協働事業を行ったことにより、世田谷区のエシカル消費の取り組みが多彩になり、東京都によるエシカル消費の推進事業「東京エシカル」で事業発表を行うことができた。本年はこれに関連して開催予定の、東京エシカルマルシェで連携できる可能性がある。</p> <p>■世田谷おいしいもの巡り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加店舗 20店舗（前年度 +1 店舗） ・参加者数 チラシ配布数 436 枚、 ラリー台紙配布数 310 枚 応募者数 40 人 ・メディア掲載 区報、世田谷 FM、J COM、ウェブサイト（マイクラフトビール） <p>・参加者アンケート フェアトレードという言葉 初めて聞いた 20% フェアトレード製品の購入 今後は意識したい 85% 世田谷にフェアトレードなお店が増えたら応援したい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉自体は知らなかったが、前から不公平だと思っていたので、このような活動があることを知って嬉しかった。 <p>・店舗アンケート 出展しての感想 良かった 33% 普通 67% 参加者数 普通 50% やや少ない・少ない 50% 自身のフェアトレードへの関心 強まった 50% 来年度も参加したい 75%（ほか未記入）</p> <p>日数が1週間短かったため全体数は前年度より少なかったが、1日あたりの参加者数は増加した。</p> <p>■世田谷フェアトレードチョコパッケージデザインコンテスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシ配布 13000 部（区内全校小学5-6年生に配布） ・応募 158 通、1次審査通過 49 作品 ・チョコレート販売数 348 個（2月1日-28日） ・区内協力店舗7店舗で販売 <p>販売では、販売後3日ほどで売り切れた店舗も多かった。 入選者の家族や友人が多く購入した。コンテストをきっかけにフェアトレードに触れる、という目的は一定の効果が見られた。また、バレンタインにも近かったため、一般の区民がギフトとして購入した。子どもたちのイラストも大変好評であった。</p>
	<p>(2) 昨年度の事業内容と比較して、新しい点や工夫した点など</p>	<p>令和4年度の提案型協働事業では、「世田谷おいしいもの巡り～スマイルプロジェクト～」 「世田谷フェアトレードチョコパッケージデザインコンテスト」の2イベントを中心に、区内でエシカル消費とフェアトレードの啓発活動を行った。本年度も同じくこれら2事業をより効果的に展開し、より広く区民、事業者のエシカルな消費行動を定着させていきたい。</p> <p>1) 世田谷おいしいもの巡り</p> <p>◆変更点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの参加者を得るために開催期間を6月11日まで延長する。 ・商店街をはじめ、地域の拠点（まちづくりセンター、図書館、銀行やコミュニティスペースなど）にチラシやポスターを設置して広報に努める。

		<p>2) FT チョココンテスト：区内小学生を対象にイラストを募集し、入選した5作品を商品化して区内協力店舗で販売。区内小学校5-6年生全数に応募用紙を配布。</p> <p>◆変更点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年を問わずに応募を受け付ける。 ・商店街や区の施設にチラシを設置する。 ・チラシ配布を7月上旬にして夏休みに応募ができるように応募期間を延ばす。 ・9月に出前授業を2-3校ほど行い、エシカル消費への理解をより深める。 ・産業フェスタで1次審査を通過した50作品を展示し、区民賞を創設する。 ・6-7月に販売を希望する店舗を募集し、協賛金により販売個数を増やす(1口1万円/40個予定) <p>3) イベントなどでのエシカル消費・フェアトレードの啓発活動を行う</p> <p>Ex) カカオ豆とフェアトレードの紙芝居+パッケージデザインへの応募</p>
	<p>(3) 協働事業を継続する理由</p>	<p>令和4年度の協働事業により、区内小学校全校へ告知が可能となったFT チョココンテストが実現でき、フェアトレードをはじめとするエシカル消費の啓発を一層進めることができた。また、おいしいもの巡りでも、令和5年度には、昨年より5店舗多い、25店舗の参加が得られた。これも、区との協働事業により団体や事業への期待が上がったことによるものと思われる。昨年度末には、東京都による TOKYO エシカルの行政の取り組みの事例として発表されるなど、エシカル消費に関する行政と市民団体との協働が他自治体へも広がる可能性もでてきた。エシカル消費に関する自治体と市民団体との協働の先駆的な事例として、さらに内容を充実させ、効果を高めるためにも、協働事業を継続させたい。</p>

事業実施スケジュール

※適宜、罫線を入れるなどして見やすいように作成してください。

時期	内容
5月	世田谷おいしいもの巡り 8日～13日 チラシなど広報物納品 13日～6月11日 スタンプラリー
6月	中旬 抽選、商品送付、アンケート集計 世田谷フェアトレードチョコパッケージデザインコンテスト 募集詳細決定 チラシデザイン開始 募集要項、チラシ・ポスター作成、
7月	募集開始
9月	外袋ベースデザイン イラスト受付（～9月30日）
10月	上旬 1次審査 下旬 世田谷産業フェスタにおいて一般投票 下旬 外部審査員審査
11月	上旬 入賞者決定、デザイン完成、印刷
12月	チョコレート入荷、封入（～1月下旬）
2月	販売開始（またはギフトマルシェにて販売）

[令和5年度提案型協働事業 様式]

事業収支予算書

【収入】

費目・内容	金額 (円)	積算内訳
補助金	500,000	
チョコレート売上	105,000	300円 x 販売350個程度
自己資金	13,500	
合計	618,500	

【支出】

費目・内容	金額 (円)		積算内訳	
	事業予算額	うち補助金申請額		
人件費	おいしいもの巡りコーディネータ	60,000	60,000	おいしいもの：コーディネーター 1500X20HX1名、1500円X10HX2名 おいしいもの：スタッフ 1500X10HX2名 おいしいものサポートメンバー 3000X2名X2日、 まちチョコ：コーディネータ 1500X20HX1名、1500X10X2名 まちチョコ：スタッフ 1500X12H サポートメンバー1500X2HX4名 まちチョコ販売協力サポート 3000 x 8店舗
	おいしいもの巡りスタッフ	30,000	30,000	
	おいしいもの巡りサポートメンバー	12,000	12,000	
	まちちょこ コーディネータ	60,000	60,000	
	まちチョコ スタッフ	18,000	18,000	
	まちチョコ サポートメンバー	12,000	12,000	
	まちチョコ 販売協力サポート	24,000	24,000	
	[小計]	216,000	216,000	
報償費	審査員謝礼	30,000	30,000	審査員 10000円X3名 (予定) パッケージ 18000円 (喜多見夢工房予定)
	パッケージ (まちチョコ)	18,000	18,000	
	[小計]	48,000	48,000	
消耗品・備品費	プリンターインク	14,000	14,000	文具：クリアフォルダ、ボールペン、輪ゴム、ポップ立て、封筒 それぞれ25店舗分、おいしいもの、まちチョコ パッケージ景品 (ケーキ7500、コーヒー3000)
	文具	8,000	8,000	
	景品 (おいしいもの)	10,500	0	
	[小計]	32,500	22,000	
複写・印刷費	印刷費 (おいしいもの)	40,000	40,000	おいしいもの：A4判2ツ折3000部19000円、ポスターA4 (20) A3 (10) 3000円、タウンチラシ6000円、ステッカー12000円 まちチョコ：応募用紙つきチラシ 1万4000部 45000円、パネル3000円、パック印刷83000円
	印刷費 (まちチョコ)	48,000	48,000	
	パック印刷費 (まちチョコ)	83,000	83,000	
	[小計]	171,000	171,000	
郵送・広告・保険料	郵便代	2,000	2,000	チラシ、見本、景品、賞品など配送分
	郵便代・配送費	3,000	3,000	
	[小計]	5,000	5,000	
使用料・賃借料	仕分け作業室料	1,000	1,000	備品仕分け作業、コンテスト審査
	まちチョコ 審査室料	1,000	1,000	
	[小計]	2,000	2,000	
交通費	交通費	13,000	13,000	備品配布・回収など
	[小計]	13,000	13,000	
その他	チョコレート	108,000	0	チョコレート 100個入り4500円X24個 購入 480 セット制作 (値上げ分考慮) 参加費：世田谷産業フェスタ
	振込手数料	3,000	3,000	
	参加費	20,000	20,000	
	[小計]	131,000	23,000	
合計	618,500	500,000		

☆この事業収支予算書は、今回提案する事業に要する予算を記入するものです。団体の年間予算を書くものではありません。

☆日常の運営経費 (団体等の日常運営の人件費、事務所賃借料、光熱水費、日常運営に要する消耗品・備品費等) は対象外です。

団体の概要

団体名	フェアトレードタウン世田谷推進委員会				
所在地	世田谷区		電話番号		
			FAX		
代表者氏名	田中理帆		役職	代表理事	
事業責任者 ※住所、電話番号・FAX、Eメールは公開しません。	氏名	田中理帆		役職	代表理事
	住所				
	電話番号				
	FAX				
	Eメール				
設立年月 (活動開始年月)	2019 年 4 月 (特定非営利活動法人設立： 年 月)				
役員等の構成 及び社員数 (会員数)	<p>理事 田中理帆 (フェアトレードガーデン世田谷 代表) (代表理事) 見城佐知子 (副代表) ジェームズ・ミニ (フェアトレードカンパニー株式会社) 金城信道 (玉川聖学院 中等部・高等部 事務長) 中島早苗 (NPO 法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン 代表)</p> <p>事務局 田中理帆 (フェアトレードガーデン世田谷) 寶田隼人 (パタゴニア東京・二子玉川)</p> <p>会計：中村由紀子</p> <p>関係団体：フェアトレードカンパニー株式会社、メイド・イン・アース、 認定 NPO 法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン 日本ケニア交友会、パタゴニア東京・二子玉川、 株式会社シュケット、パクパク・ナティン、 玉川聖学院 中等部・高等部</p> <p>正規会員：15 名 (団体)</p> <p>協力大学 (明治大学小田ゼミ学生、昭和女子大学フェアトレードサークル、日本 大学ボランティアサークル salamat”A”)</p>				

<p>主な活動分野</p>	<p>消費者教育、エシカル消費・フェアトレード啓発、国際協力。 フェアトレードをツールとした地域連携</p>
<p>主な活動実績</p> <p>*行政との協働の実績を含む。</p>	<p>2017-2019 フェアトレードタウン世田谷推進委員会の母体であるフェアトレードガーデン世田谷消費生活課 夏休み親子教室 登壇</p> <p>2018. 11月 世田谷産業フェスタ出展 12月 世田谷区立中央図書館特設コーナー エシカル消費展示協力</p> <p>2019. 4月 フェアトレードタウン世田谷推進委員会発足 5.18 第1回勉強会@世田谷文化生活情報センター 「フェアトレードタウンを知ろう」参加者30名 ゲストスピーカー 谷内田絢子さん NPO法人ジャパン・プラットフォーム 胤森なお子さん 一般社団法人 日本フェアトレード・フォーラム (FTFJ) 代表理事</p> <p>7.12 第2回勉強会@玉川聖学院 「大都市のフェアトレードタウン運動を学ぶ～名古屋～」 ゲストスピーカー 原田さとみさん NPO法人フェアトレード名古屋ネットワーク(FTNN)理事</p> <p>9.15 フェアトレードファッションショー衣装提供@玉川聖学院文化祭 10.8 第3回勉強会@下北沢タウンホール 「SDGs × 消費者の意識改革 = エシカル ～エシカル消費が実現するSDGsと循環型社会～」 ゲストスピーカー 中原秀樹さん 東京都市大学名誉教授 日本エシカル推進協議会会長</p> <p>10.26 世田谷産業フェスタ2019出展 フェアトレードのクイズと物品販売</p> <p>11.17 消費生活課 せたがやエシカル消費展@世田谷産業プラザ 消費生活課の依頼によりフェアトレードガーデン世田谷が出展団体を紹介した。 フェアトレードタウン世田谷推進委員会メンバー団体が参加。</p> <p>2020 2月 世田谷区消費生活課 展示協力 「はじめよう！ エシカル消費」@世田谷区役所第1庁舎 区政PRコーナー</p> <p>3-7月 世田谷区立中央図書館 特設コーナー展示協力 「エシカル消費・フェアトレード」</p> <p>3月 世田谷区産業振興基本条例検討会議 委員</p> <p>5月 世界フェアトレード月間イベント@キャロットタワー (コロナのため中止) 「エシカルな暮らしが未来をつなぐ」 共催：世田谷区消費生活課</p> <p>5月 世田谷おいしいもの巡り2019 参加10店舗、参加者271名、応募47名</p> <p>11月 世田谷区主催『食品ロス・食品廃棄物』展示イベント@三軒茶屋パティオ</p> <p>2021年 3-4月 世田谷サステナブル・ラボ Vol.1 オーガニックコットンとメイド・イン・アース 前田剛さん Vol.2 ファッションとサステナビリティ 根本亜希子さん</p>

	<p>5月 世田谷おいしいもの巡り 2021 参加 19 店舗 参加者 381 名、応募 60 名</p> <p>5月 フェアトレードタウン世田谷推進委員会 オリジナルドリップコーヒー販売開始 焙煎 社会福祉法人かしの木会 まもりやま工房</p> <p>6月 SETAGAYA PORT LABO 登壇</p> <p>7月 祖師谷コワーキングスペース Work&Play Soshigaya 棚ショップにて フェアトレード商品販売開始</p> <p>9月29日 フェアトレードむさしの オンラインイベント 「地域にねざしたフェアトレード」登壇</p> <p>10月 Grow up! SETAGAYA せたがやそだち加工品ビジネスプランコンテスト 審査員 世田谷区経済産業部・都市農業課</p> <p>11月 昭和女子大学フェアトレードサークル発足 オンラインイベント登壇</p> <p>11月 bajico（馬事公苑界わいコミュニティデザインプロジェクト） シャルソン参加</p> <p>12月 SETAGAYA PORT 主催 エシカルギフトマルシェ@三軒茶屋ふれあい広場 企画協力、出展</p> <p>2022年</p> <p>2月 三菱東京UFJ銀行 社内社会貢献プロジェクト フェアトレードの啓発活動にて チョコレート400個の配布協力（区内の親子支援施設、子ども食堂、児童相談所など）</p> <p>3月 二子玉川小学校出前授業にて講演</p> <p>3月 三軒茶屋小学校PTA主催 エシカルで行こう！商品提供</p> <p>3月 スフィーダ世田谷との連携開始 試合会場にてフェアトレード商品の販売、書籍展示等</p> <p>5月 世田谷ポートランド都市交流協会主催 People's Market 出店</p> <p>5月 世田谷おいしいもの巡り 2022</p> <p>9月 世田谷フェアトレードチョコパッケージデザインコンテスト 世田谷区立玉堤小学校 出前授業（全5回）</p> <p>10月 世田谷産業フェスタ 2022 出展 Grow up! SETAGAYA せたがやそだち加工品ビジネスプランコンテスト 審査員</p> <p>2023年</p> <p>1月 世田谷区立中央図書館特設コーナー エシカル消費 展示協力</p> <p>2月 ニューエナジーにて TOKYO エシカルゾーン※にて事業発表（消費生活課） ※TOKYO エシカル：東京都が約90のパートナー企業・団体とともにスタートしたエシカル消費を 推進する新プロジェクト「TOKYO エシカル」。</p> <p>3月 スフィーダ世田谷開幕戦（駒沢オリンピック競技場）出展 世田谷区地域経済の持続可能な発展を目指す会議 委員</p> <p>4月 桜新町商店街 さくらまつり フェアトレード紹介ブース出展</p>
<p>団体の ホームページ</p>	<p>https://fttsetagaya.com/</p>

選定委員からの意見

事業名：世田谷エシカル消費・フェアトレード推進プロジェクト

- 地域経済の持続可能な発展条例に基づき、区が区民にエシカル消費を呼びかけるタイミングで、市民活動団体がフェアトレードを含むエシカル消費の普及に取り組む協働事業の提案であり、時機をとらえたものとして評価できる。
- 事業内容も単なるセミナー等の開催ではなく、商店街と連携したメニュー開発によるエシカル消費誘導や、チョコレートデザインコンテストを通じた小学生とその家族への働きかけは特筆すべきものがあり、さらに昨年度の協働事業実施状況を踏まえ、対象を拡大するなどの工夫も見られることから、事業のさらなる充実・発展に期待する。
- 一方、区担当課との協働が相乗効果を生むところまでは確認できなかったため、区側も提案団体の事業と協調し、啓発を関連付けて行うなどその手法や時期の工夫、調整が必要である。